

秋田県内にシニアミュージカル劇団をつくるうー！の声かけのもと結成された「劇団ひこばえ」。9月8日にわらび座で同団によるミュージカルが上演されました。

演じることが身体機能・認知機能にもたらす効果を科学的に検証する研究の一環として行われた今回の取り組み。研究は、わらび座と秋田大学高齢者医療先端研究センター（大田秀隆センター長、小玉鮎人助教）が行ったもので、公益財団法人伊徳地域振興財団の助成事業となっています。

劇団は、昨年10月、仙北市をはじめ秋田市や横手市、大仙市など県内各地から65歳から80歳の男女が集まりスタート。検査を行った後、稽古を開始したものの、2月から5月までの4か月は、新型コロナウイルス感染症の影響で稽古がやむなく中止に。再開した6月からは、参加した劇団員が奮起して2回の稽古を積み上げ、ついに9月8日の上演を迎えました。

ひこばえとは、稲刈りした切り株から再生する苗のこと。「こんなものじゃない！ま



見事にミュージカルを演じきった劇団ひこばえの皆さん。

劇団ひこばえがミュージカルを上演

演劇が認知機能にもたらす効果を検証

まだまだ終わらない！「再生する」という意味が込められています。

作品は米作りの一年を描いたもので、冬、春、夏、秋とチームに別れた台本・演出・衣装・小道具すべてを自分たちの手作りで行ったとのこと。収穫の喜びを歌い、ダンスを踊る各団員。力強い歌声に心が震え、生き生きとみんな最後までやりきった様子は、達成感に溢れ、会場は感動に包まれました。

発表後は、各団員の最終検査を行い、秋田大学に結果を持ち帰り検証します。

表紙の写真から



3年ぶりに曳山が練り歩く 角館祭りのやま行事

9月7日から9日、「山・鉾・屋台行事」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「角館祭りのやま行事（角館のお祭り）」が行われました。

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年と一昨年は曳山の運行が中止に。今年は、感染症対策のもと、3年ぶりに曳山が角館町内を練り歩き、「オイサー！」のかけ声が響き渡りました。

7日は、各丁内から武者人形や歌舞伎人形を飾った18台の曳山が角館總鎮守神明社を目指して出発。8日には、御座所にて佐竹北家当主に各丁内のおやま囃子と艶やかな手踊りを上覧し、夕方からは観光用のやまぶっつけが行われました。

最終日の9日は、勝楽山成就院薬師堂の参拝を終えた曳山同士が道で出会うと、通行の優先権をめぐる交渉を繰り返して、決裂すると実力で通る本番のやまぶっつけが行われました。その迫力に詰めかけた観客は見入っていました。



おやま囃子コンクール受賞者決定



9日に角館祭りのやま行事実行委員会本部前で実施した表彰式の様子。

9月8日、佐竹北家上覽時に、各丁内の曳山が一堂に会し、おやま囃子コンクールが開催されました。

厳正な審査の結果、次の方々各賞を受賞されました。（敬称略）

- 囃子部門**
- ▼《秋田県知事賞》西部若者秋月会 代表 藤原勇悦
 - ▼《仙北市長賞》横町若者 角館山本組 代表 山本善昭
 - ▼《角館のお祭り保存会長賞》中央通り 奏雅扇舞会 代表 藤井哲也
 - ▼《田沢湖・角館観光協会賞》七日町丁内 わらび座 代表 小澤剛
 - ▼《仙北市商工会賞》桜美町若者 飾山囃子弘道流奏秋会 代表 水平幹人
- 手踊り部門**
- ▼《秋田県知事賞》西部若者 藤美会 代表 藤原ミサ子
 - ▼《仙北市長賞》横町若者 渡部幸子社中 代表 渡部幸子
 - ▼《角館のお祭り保存会長賞》七日町丁内 藤美会 代表 藤原ミサ子
 - ▼《田沢湖・角館観光協会賞》桜美町若者 渡部幸子社中 代表 渡部幸子
 - ▼《仙北市商工会賞》駅通り若者 藤美会 代表 藤原ミサ子



小林正典会長（左）から田口市長（右）に、目録が手渡されました。

京都嵯峨野ロータリークラブから
放課後児童クラブに備品を
寄贈いただきました

9月14日、京都嵯峨野ロータリークラブ（京都府京都市）より、仙北市内の放課後児童クラブに空気清浄機とブルーレイプレーヤーセットを寄贈いただきました。

同ロータリークラブの小林正典会長の親族が仙北市田沢湖に在住している縁から、創立30周年の奉仕活動の一環で今回の寄贈に至りました。

寄贈式には同ロータリークラブの会員11人が出席。仙北市からは感謝状が贈られました。

小林会長は「なじみ深い仙北市に奉仕活動ができることを喜んでいる。これからも未来を担う子どもたちのために奉仕活動を続けていきたい」とあいさつしました。

栄光・表彰

第21回東北選手権大会出場選考会 きたうらバレーボール Jr. が東北大会へ

9月11日、ニツ井町総合体育館（能代市）で開催された「第21回東北選手権大会（37th）出場選考会」できたうらバレーボール Jr. スポーツ少年団が東北選手権大会への出場権を獲得しました。

同選考会は、6月に開催された全日本バレーボール小学生大会秋田県大会でベスト8に勝ち進んだチームで実施。同団は、決勝で能代ドリームスターズに敗れはした

ものの、上位2チームに入り東北大会への切符を手に入れました。

キャプテンの齋藤柑奈さん（西明寺小6年）は「東北大会ではチームみんなで一致団結し、多くの勝利を掴み取りたいです」と元気に抱負を語ってくれました。

東北各県の代表2チームずつが出場して競い合う東北選手権大会は、10月9日・10日に青森県青森市で開催されます。



9月20日、田沢湖庁舎に報告に訪れたきたうらバレーボール Jr. の皆さん。左から赤上副市長、田口市長、伊藤咲羽さん（西明寺小6年）、佐藤瑠姫さん（同）、齋藤柑奈さん（同）、三浦柚友さん（神代小6年）、草薙夏音さん（白岩小6年）、佐藤連華さん（神代小5年）、大石美幸監督。



①正しい姿勢、②地面を押す、③膝をたむなどのポイントを学びました。

早く走るための
走法などを学ぶ

9月4日、秋田市雄和の県営陸上競技場で中学生を対象にした仙北市陸上競技教室が開催されました。

仙北市スポーツ協会が主催した同教室には、陸上競技に関心を持つ生徒などが参加。秋田県強化委員長で令和高校陸上部監督の石川傑惣先生と仙北市スポーツ協会職員で女子200mの県記録保持者の小玉絵梨子さんが指導にあたりました。

はじめに、映像を使って石川先生が世界のトップ選手のフォームを解説。その後、実際に競技場でミニハードルなどを使って練習を行いました。

参加した中学生たちは、指導者のアドバイスを意識しながら、熱心に走練習に励んでいました。

仙北市陸上競技教室